

# OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



## プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 丹羽 祐介  
所属 (School) 工学研究科 物質・化学系専攻  
学年 (Grade) 博士前期課程 2 年

留学先 (Name of overseas institution)  
オーストラリア(メルボルン)

留学期間 (study abroad period)  
2018/8/22~2018/9/22

## 留学レポート Study Abroad Report

オーストラリアへの語学留学に参加して非常に満足できました。もし迷っているようであればぜひ参加をお勧めします。なぜ私がおすすめするのか、その理由を以下に記します。

まず第一に英語を使わなければいけない環境です。私の場合、日本では英語を使う機会はほとんどありませんでした。したがって「英語の勉強」というのはテストや資格のためでありそれ以上の意味を見出せていませんでした。しかし、オーストラリアへの留学し、いざ自分の英語を使ってみると相手に自分の考えが伝わらず、またどう表現すればいいのか考えることが頻繁にありました。英語でコミュニケーションを取るためには文法や語法以上に発音の重要性に気づかされた瞬間でした。一か月英語と向き合い考え抜いた経験はこれから英語を勉強し、話す際に必ず生きてくると感じています。

次に、私が留学を推す理由にはオーストラリアの文化があります。留学先のメルボルンはオーストラリア以外の国をルーツに持つ人が多く、ダイバーシティに富んだ社会が形成されています。メルボルンの街には中華街、イタリアン通りや日本食のレントランも数多く存在し、食に困ることもありません。街の通りにはストリートアーティストが演奏したり絵を描いていたり日本ではありえない自由な雰囲気を感じることができます。

また、オーストラリアの広大な自然、メルボルンの街並みも私が留学をおすすめしたい理由のひとつです。週末にはホームステイの人と一緒に南西の海岸へ観光に行き、その迫力に圧倒されました。メルボルンの街並みは西欧風な建物と近代的な建物が調和を成しており、周りを歩くだけでも楽しめます。また「コーヒー」の街と言われているだけあって、どこのカフェでもカプチーノを美味しく飲むことができます。すなわちメルボルンへの語学留学はそんな街並みや自然を楽しみながら英語を勉強できるのです。

ここからは留学にあたって必要な準備について書きたいと思います。留学する前に考えなければいけないことは留学する目的です。オーストラリアへ到着してからやることを決めるのはあまりお勧めしません。留学後の自分を想像し、そこへ向かうために何に取り組みたいか、どんな挑戦をしたいか考えてみてください。一か月という限られた時間の中でやれることは非常に限られています。メルボルンではイベントも多数開催されており、観光スポットも非常に多いです。Facebook や Meetup などのアプリでイベントを事前に調べてみていいかもしれません。

最後にほんの少しのアドバイスを書きます。一か月の留学を終えて、オーストラリアでの日本製品への信頼は非常に高いと感じました。ホストファミリーへのお土産には日本のお菓子が大変喜ばれると思います。オーストラリアの料理は日本人にもおいしいと感じるものが多く、味覚の価値観も似通っていると思いました。メルボルンでは水道水が日本以上にきれいで、日常では水道水を飲むことが多いです。オーストラリアでは水が高価でありホームステイ先で多く使うことは難しいと思います。一方で、モナシ大学にはキッチンスペースがあり、水道水を飲み水として自由に使うことができます。現地でも安く買えますが、小さな水筒を持っていけるといいかもしれません。また日本と比べてかなり乾燥した気候であるのでリップクリームはあった方がいいと思います。

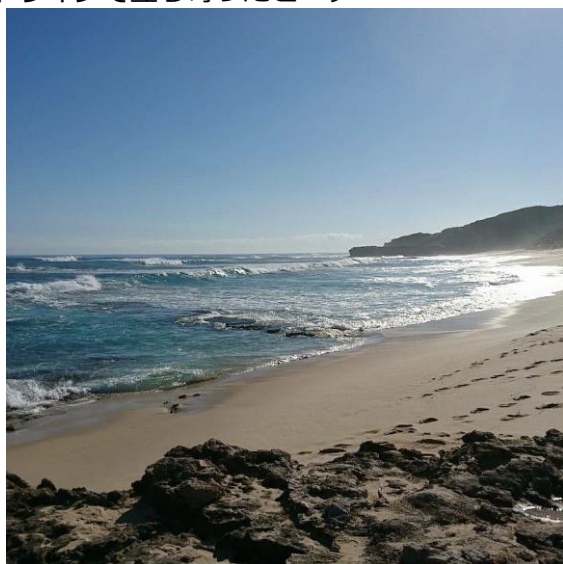


以下は私が訪れた場所の風景を紹介します。ご参考程度にいただければ幸いです。

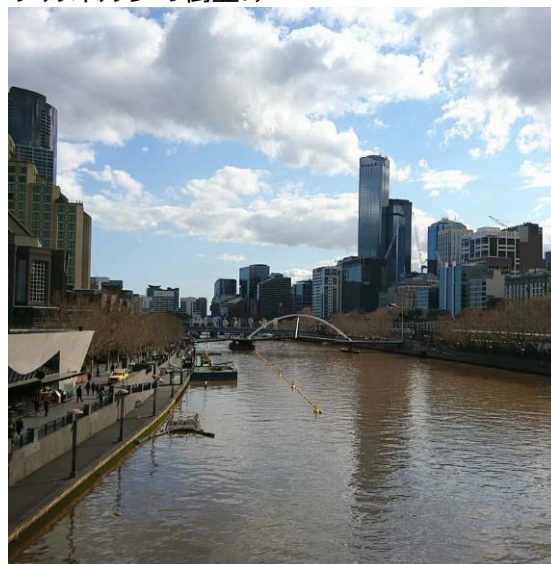
モーニントン・ペニンシュラ国立公園の海岸



ドライブで立ち寄ったビーチ



メルボルンの街並み



セント・ポールズ大聖堂



ウォールアート

